

文化の祭典 松陽生躍動



発行所
鹿児島県立松陽高等学校
新聞同好会
鹿児島市福山町573番地

春夏の松陽生の活躍が満載
1面…第43回文化祭特集
「次の未来を描く」
2面…美坂先生のイタリア留学記
3面…松陽生の活躍特集
「煌めく松陽生」
4面…松陽から夢実現
「Lumeraデビュー」
松陽グルレボ探検隊
「かつちゃんラーメン」

Art Days
アートな日々
VOL. 10
Anima



制作者 陳尾優月(2-8)
左の青い魂は無気力で冷めた私、右の赤い魂はそんな自分に怒り、そこから離れようとする私を表現している。
動けなかった私と動き出そうとする私、その両方が存在した瞬間を大切に記録した。
第72回県美展公募の部新人賞受賞作品。
〔馬渡奏多〕



一学期は松
伊戦や文化祭
などの学校行
事で大いに盛
り上がった。
夏休みが終わ
り、残暑の中
にも朝夕の涼

第43回文化祭

「次の未来を描く」テーマに ステージ部門は伊集院文化会館で実施

6月5日（金）・6日（土）の2日間、第43回文化祭が開催された。今年のテーマは「咲いた先へ、今をつなぐ」それぞれの色が、次の未来を描く。近年、多様性を重視したテーマを掲げてきた松陽高校らしく、今年は、多様性の先に広がる未来を感じさせる、バラエティ豊かなステージや展示が披露された。1日目は、改修工事で使用できなかった川商ホールに代わり、伊集院文化会館で開催。2日目は学校でバザーや展示が行われ、両日とも多くの保護者や地域住民が来場し、大きなにぎわいを見た。

コンパクトな会場 一体感高まる

文化祭1日目は、昨年まで会場として使用していた川商ホールが改修工事のため、今年は日置市の伊集院文化会館で開催された。

初めての会場で準備にとまどいもあったが、ステージと観客の距離が近いことから当日は会場の一体感が高まった。オープニングを飾ったのは書道部。「Falling Song」の歌詞を部員が交代で書き進めていくパフォーマンスに会場は一気に引き込まれた。

美術科制作の毎年恒例の本校職員が出演するパロディ動画「ティーチャーズ」は、今年はタイムリープをテーマに先生方が熱演。バブル時代等をコミカルに演技する姿に生徒たちから歓声が上がった。

英語コースによるディベール



昭和、平成のエモい演出に生徒たちは爆笑。普段と違う先生方の好演に声援が送られた。（美術科動画「ティーチャーズ」）

ト対決では、「恋人にするなら、みんなに優しい人か、自分だけに優しい人か」という議題で英語で議論が交わされた。

午後の部は演劇部の引き込まれるような演技で幕を開けた。音楽部は「ごんぎつね」を合唱し、高い表現力とストーリー性で観客の涙を誘った。最後は吹奏楽部が一体感あふれる圧巻の演奏を披露し、1日目のフィナーレを飾った。台風の影響で十分な練習時間を確保できなかった部活やクラスもあったが、それを感じさせないほど完成度の高いステージ部門となった。

〔内野心春〕

多彩なバザー・展示でにぎわい



日本の和を取り入れた屏風や建物の演出。手づくりの小物や陶芸作品等を家族連れ等が次々と買い求めた。（多目的ホール）

文化祭2日目は、学校で展示とバザーが行われ、松陽生はもう一つ、地域の方々や他校の生徒も多く訪れ、校内は終日にぎわいを見せた。3年8組は「温故知新〜和の美学」と題して多目的ホールを日本庭園風に設営。小物類、美術作品、似顔絵等が販売された。同時に販売された「ティーチャーズカードは、先生

列が出来た。事件の謎を解き、正解の扉を開くことで物語が進む仕掛けが魅力的で、某探偵漫画をモチーフにした扉の再現も来場者の興味を引いた。2・3年生が企画したバザーでは、ヤ



教室棟に18のバザーの店舗が軒を連ねた。写真は3年5組の「Three Five Kitchen」

ン、肉巻きおにぎり、からあげなど、多彩なメニューが提供された。体育館でのバザーの当日券販売では、多くの地域の方々が朝早くから行列を作り、お目当てのチケットを買い求めている。地域住民の方々に松陽高校に親しみを感じていた

〔長野雄太〕

全九州高校総文鹿児島大会スタート
通年で9部門が開催へ
6月17日、県歴史・美術センター黎明館で第10回全九州高等学校総合文化祭（全九州総文）のオープニングセレモニーが行われた。大会テーマは「きばっど！九州の鼓動 未来へ届け」。全九州総文は、九州・沖縄各県の高校生約2千名が参加し芸術・文化活動の発表・競技・交流等を行う。来年2月まで通年で実施され、美術・工芸、書道、写真、文芸、囲碁、弁論、放送、小倉百人一首かるた、吹奏楽の9部門が順次行われる。多くの松陽高校生が実行委員等でも参加するこの大会に注目したい。〔長野雄太〕



全九州総文鹿児島大会大会実行委員会
会イメージキャラクター
「かこまる」

しさを感ずるこの頃、ふと何か寂しさを覚える人もいるのではないだろうか。多くの三年生は部活動を引退し、進路実現に向けて本格的に動き出す。一・二年生は定期テストや部活動など、それぞれの目標に向けて気持ちを切り替えて取り組む時期となる。▼一方で、新しい目標に向かって懸命に努力する中で、将来への不安や孤独を抱えてしまう人も少なくないだろう。そんな時こそ、誰かと顔を合わせて挨拶を交わしたり、言葉を手を交わしたりすることを大切にしたい。今はLINEやSNSで簡単にやり取りできる時代だが、文字だけでなく、相手の笑顔や表情、声のトーンを感じながら受け取る言葉には、人を励まし、勇気づける力があると思う。▼言葉には孤独や不安を和らげ、前に進む力を与える働きがある。不安な時こそ、一人で抱え込まず、挨拶を交わし、直接顔を合わせて話したり相談したりしてほしい。特別な言葉でなくても、何気ない日常の一言が誰かの支えとなり、自分自身の力にもなるはずだ。言葉の力を忘れず、一日一日を大切に過ごしてほしい。

〔坂元咲愛〕